

福井高等工業学校 上空写真 1927



「工学部キャンパス」100年の礎を考える
— 關盛治・坂部保治から五十嵐直雄へ —

福井大学工業会 福の井会 2023年度総会 記念講演会2023.7.8

福井工業大学 市川 秀和 (A-H5 修了)



福井市の旧城下町構造／風水から見た 福井大学キャンパスの位置

福井大学
キャンパス

天門

福井七口
城下町の出入口

- ①大橋口
- ②明里口
- ③三ツ橋口
- ④牧之島口
- ⑤加賀口
- ⑥志比口
- ⑦勝見口

足羽山（裏鬼門）



旧制 官立 高等工業学校				
	創立年	校名	新制大学	キャンパス
明治期	1901	東京	東京工業大学	移転
		大阪	大阪大学工学部	移転
	1905	名古屋	名古屋工業大学	○
	1906	熊本	熊本大学工学部	○
		仙台	東北大学工学部	○
	1910	米沢	山形大学工学部	○
		秋田	秋田大学理工学部	○
大正期	1915	桐生	群馬大学理工学部	○
	1920	横浜	横浜国立大学理工学部	移転
		広島	広島大学工学部	移転
		金沢	金沢大学工学部	移転
	1921	神戸	神戸大学工学部	移転
	1922	浜松	静岡大学工学部	移転
		徳島	徳島大学理工学部	○
	15	福井	福井大学工学部	○
	16	長岡	新潟大学工学部	移転
	17	山梨	山梨大学工学部	○
昭和戦中期	1939	室蘭	室蘭工業大学	○
		盛岡	岩手大学理工学部	○
		多賀	茨城大学工学部	○
		宇部	山口大学工学部	○
	1943	新居浜	愛媛大学工学部	移転
		久留米	久留米工業高等専門学校	○
	1944	長野	信州大学工学部	○
1944	高岡	富山大学工学部	移転	
	和歌山	和歌山大学システム工学部	移転	
27	彦根	滋賀県立大学	移転	

福井高等工業学校の創立をめぐって



初代校長 關盛治 と 創立時の教員

創立経緯

設置公布

1923：大正12年
12月10日勅命501号

初代校長 關盛治 拜命

12月11日付

学生定員 120名

建築科 **A** 40名

機械科 **M** 40名

繊維工業科

色染分科 **T** 15名

紡織分科 **D** 25名

3年制 (1年3学期制)

第1期生入学式 95名

1924年4月10日

A35, M30, T10, D20

創立期の教員たち

建築科長

坂部保治

教員

吉田宏彦

野々目一二

角田重喜千

高橋寛

機械科長

金尾忠義

教員

堀内利正

清水篤麿

吉野源之助

機械工場長 中山邦寛

繊維工業科長・紡織分科長 吉田喜一

教員

佐々木三夫

大森留郎

新井幸長

紡織工場長 田中次郎

色染分科長 立木勝蔵

教員

宮岡宇一郎

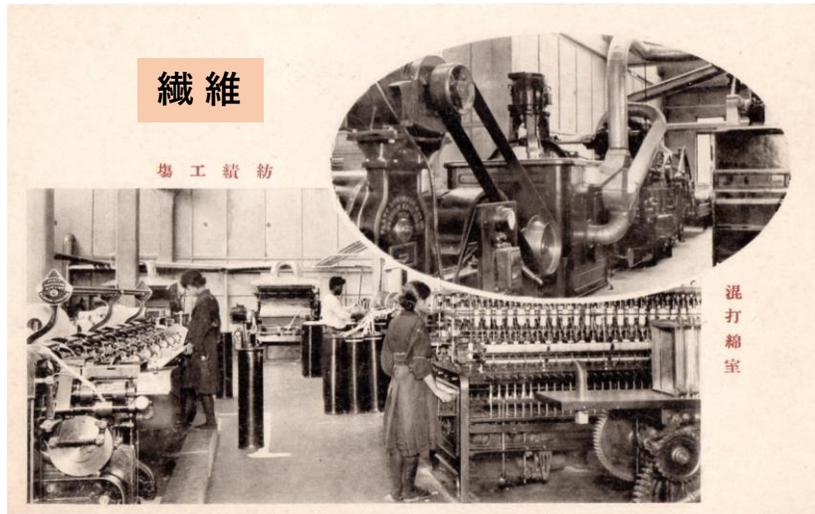
岡田晃

色染工場長 菊川俊助



校學業工等高井福

(勝名井福)



福井高等工業学校のキャンパス



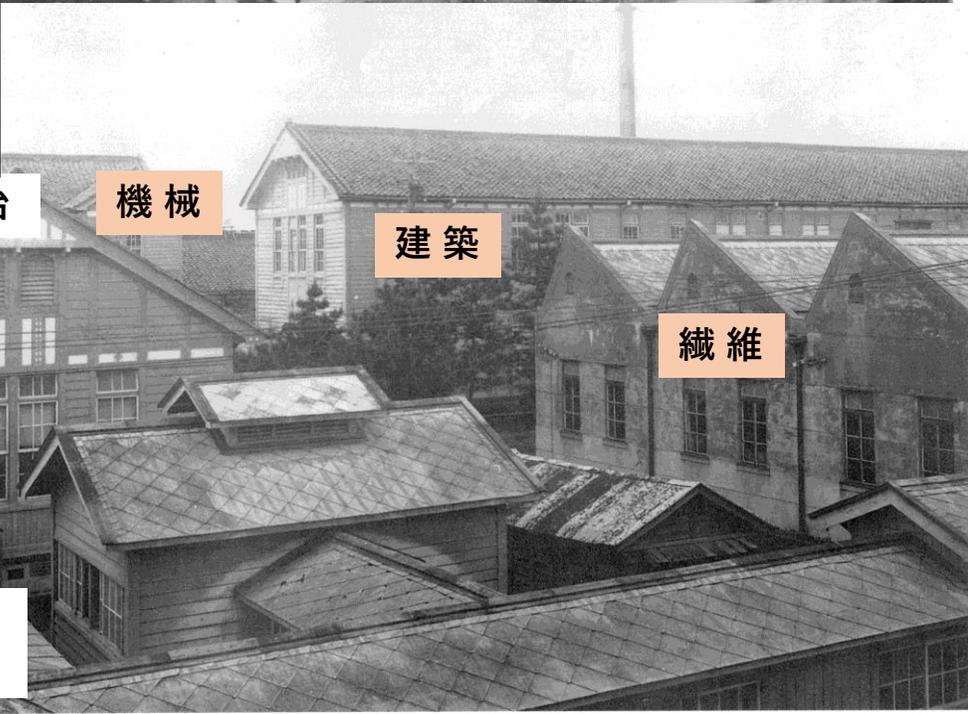
福井高等工業学校 上空写真 1927



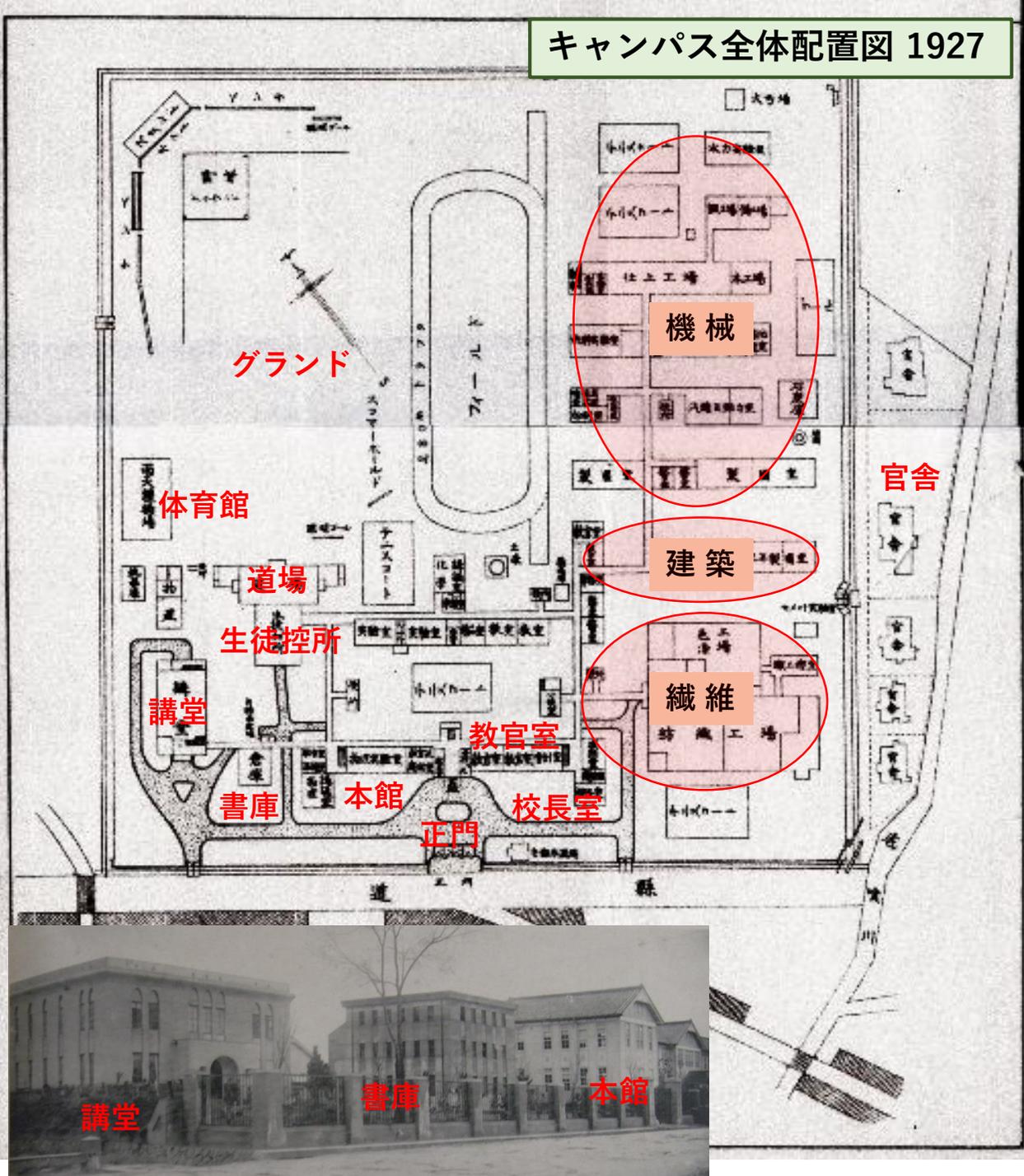
初代校長 關盛治

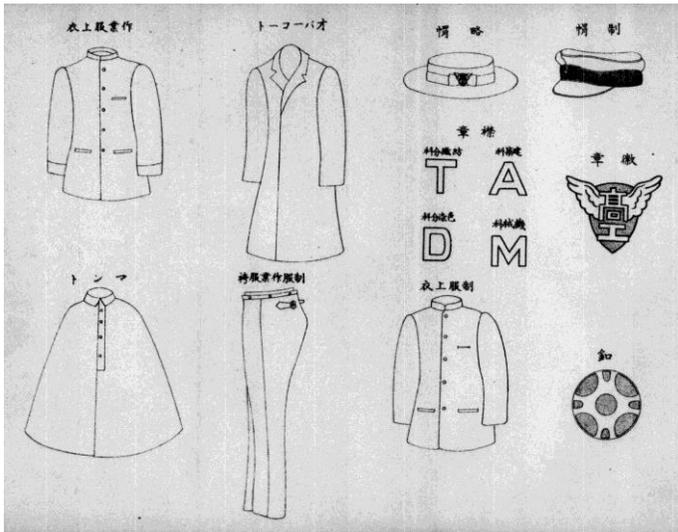


建築科主任教授 坂部保治

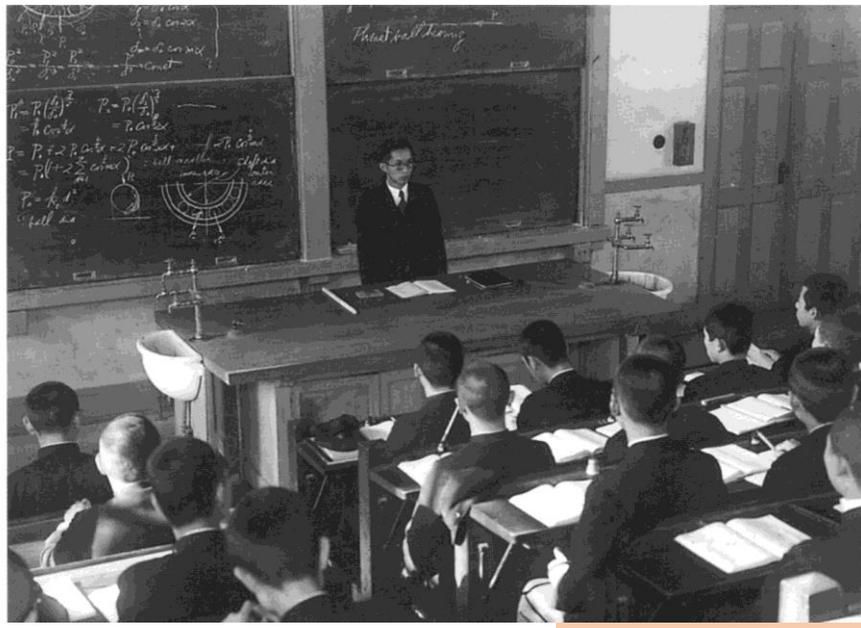


キャンパス全体配置図 1927





制服・制帽など



大教室での講義



食堂（生徒控所）



キャンパスでの学校生活

校歌

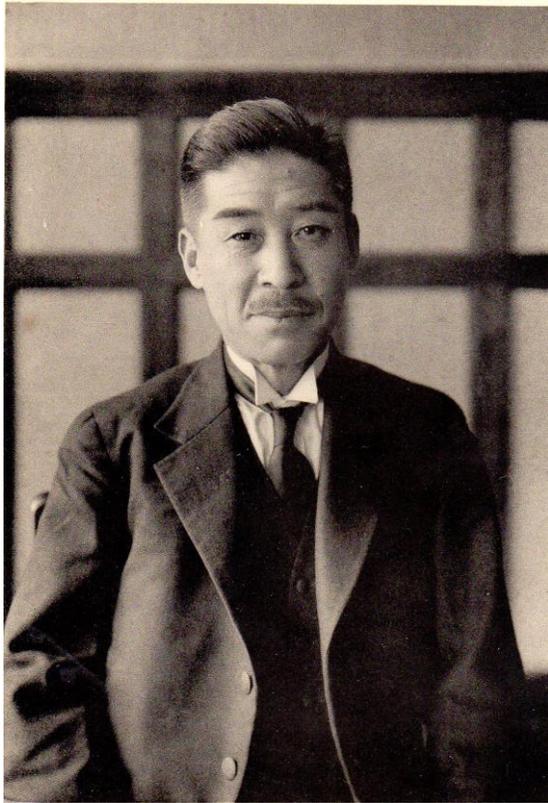
一 九頭龍流域福井の北に
健児我等は心身鍛へ
竊に期する未来の覇者ぞ
我等の腕は彼の鐵助よ
雨と戦ひ嵐に堪へて
力潜りて三歳をわたる

二 越の白山東に眺め
少壯我等は心身鍛へ
竊に期する未来の強者
我等の意氣は彼の熔鑪城
霜を這ひやり吹雪を拂ひ
熱を抱きて三歳を過す

三 燈明寺殿足羽の山に
學徒我等は心身鍛へ
竊に期する未来の勇者
我等の操伎の練る生絹
月に休らひ日に起ち奮ひ
絶えず行手に光を望む



軍事教練



初代校長 關 盛治のことば



校友会誌『北冥』
第6号 1928



遺著『工業教育一家言』
1934

熱誠人の教育信念

学生は単に機械的に注入せられたる知識の容器であってはならぬ。教育は注ぎこむべきものでなく感化啓発を以てその終局の目的とせねばならぬと云うのが私の理想である。それ故に教える者は教えらるる者に対し親愛の情を熱誠の力に寄せて進まねばならぬ所に教育の真諦もまた妙味もあると私は考えている。

意気地なし

何々学校の出身である事にコダわるのは、出身学校という保護色にかくれた了見である。境遇、環境の捕虜となるもの多し、人呼んでイクヂナシという。

努力の小出し

私は努力の小出しが大嫌いだ。努力の小出しは努力の浪費だ。われわれは常に何事に対しても自己の持つ全幅の努力を拂い出さねばならぬ。

自己の最善を尽くす事、さすれば自分で測り知る事の出来ない力が湧いて来る事は私の体験であります。

金魚と鯉

先日、一青年を戒めたことがある。君は金魚の様なものだ。清い水の中で焼麩を与えておけばどうにか元気だが、一度これを急流に投ずれば忽ちヘタばってしまう。濁流急湍を物ともせず、瀧をも乗り切る鯉の如き澆漓たる体力と元気がなければならぬ。

ドン底から

困苦欠乏に遇わざる人は不幸なり、と諺にある様に、人間は一度この難関を通らぬと本当の天賦の力が頭を擡げて来ないものだ。



空襲により炎上する建築教室棟1945



再建直後、地震で倒壊する校舎1948

地震により壊滅した福井市中心部 1948年6月



坂部 保治



熊谷 太三郎

福井高等工業学校（戦時中：福井工業専門学校 改称）キャンパスは、空襲1945と地震1948により壊滅し、学校再開が出来ず、文部省から舞鶴や金沢への移転問題が浮上した。これに激怒した建築科主任の**坂部保治**は、学校存続のために、福井市の復興を目指す**熊谷太三郎**市長と協力関係を結ぶに至る。

1952 福井県建築士会

戦後復興を担った建築技術者のネットワーク

(1955年前後)

(1949 福井建築文化協会)

官庁建築課

福井県庁 小畑知事

福井市役所



谷口 治郎
東大 1938 卒



建築課長



建築課長



熊谷太三郎 市長



伊藤 道夫 *
1936 卒



江上 外人 *
1940 卒



佐田 強 * 第2期生
1928 卒



竹内 隆 * 第1期生
1927 卒

技師 河野 務道 * 1929 卒
高間 基一 * 1930 卒
宇野 喜之 * 1936 卒
瀬田 精一 * 1941 卒

大田原 庸薫 * 1945 卒
神谷 一則 * 1949 卒
渡辺 三郎 * 1949 卒
神門 慎一郎 * 1950 卒

技師 中西 一郎 * 1930 卒
上中 博 * 1932 卒
上田 正男 * 1935 卒
峰田 実 * 1945 卒
山口 孝義 * 1945 卒

大学教育機関

1924 福井高等工業学校建築科

工業専門学校 → 1949 福井大学工学部建築学科

福井大学 施設課

寺西 礼一 * 1936 卒
佐野 修也 * 1943 卒
山本 豊治 * 1945 卒



坂部 保治
東大 1915 卒



吉田 宏彦
東大 1921 卒



五十嵐 直雄
東大 1938 卒



岡田 賢治
京大 1953 卒



小長谷 義一 *
1959 卒

*印 福井高等工業学校・工業専門学校
福井大学 卒業生

民間設計事務所

大工棟梁の系譜



乾 馨 * 第3期生 1929 卒
1949 アルス建築事務所



伊藤 貞 (横浜高工 1931 卒)
1950 伊藤建築事務所



中谷 肇 * 1936 卒
1947 中谷建築事務所
1962 合同建築事務所



高木 相良



仙坊 光男
京都高工 1945 卒



小木 藤八郎



品川 三三男 *
1949 卒



上川 禎彦 *
1949 卒



木村 慶一 *
1955 卒



川瀬 雄志 *
1956 卒



天谷 新 *
1950 卒

建設会社 (1950 県建設業協会 → 1960 県建設業連合会 会長: 熊谷太三郎、副会長: 齊藤兵衛)

熊谷組: 吉田 賢吉 * 1929 卒
三村 捨市 * 1940 卒
木下 喜之 * 1945 卒

三木組: 田中 正光 * 1933 卒
大北 昭治郎 * 1941 卒
南部 清二 * 1942 卒

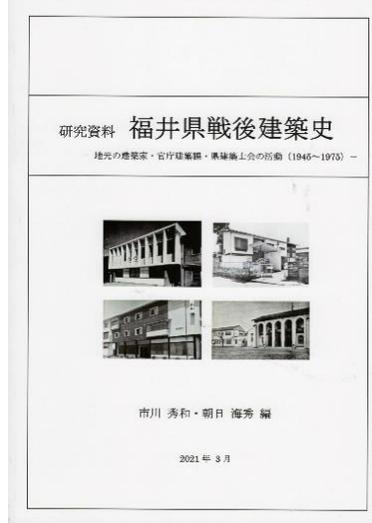
石黒建設: 大村 末義 * 1948 卒
北島 重昭 * 1951 卒
山下 昭治 * 1954 卒

市川研究室における福井県戦後建築史調査 研究成果 (2017~2023)

市川秀和・朝日海秀

「研究資料

福井県戦後建築史」2021



福井県初
DOCOMOMO Japan
選定建築物 no.255
(2022.6)

建築福井 72



創立70周年記念

五十嵐直雄 設計
「福井神社1957~1966」



市川秀和

「福井県建築士会と

郷土の建築家たちの軌跡」

「建築福井」72号 2023

2023.1
一般社団法人 福井県建築士会

福井大学工学部キャンパス 1951

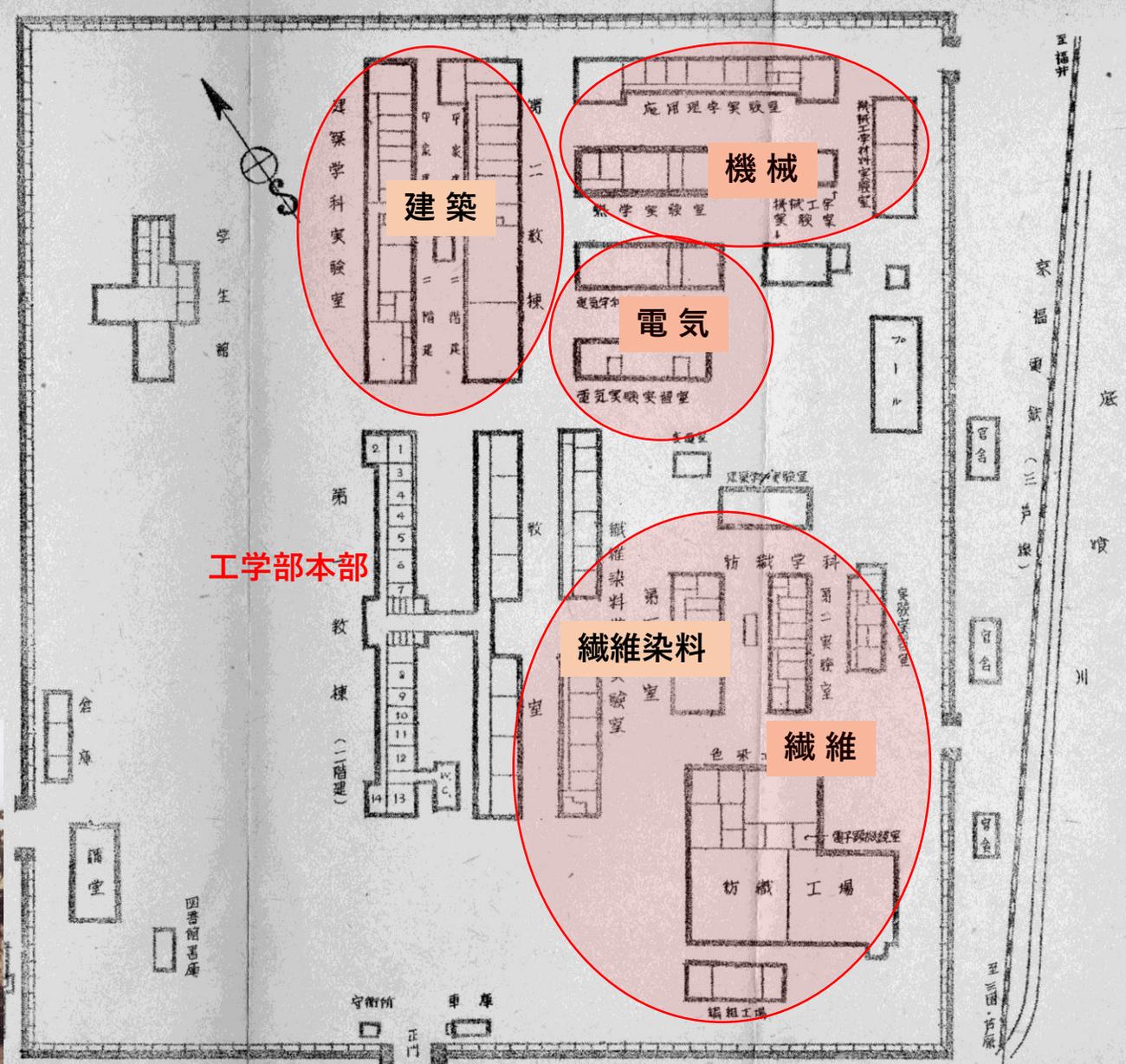


工学部・本部建物配置図

福井大学工学部 1951
 建築学科
 機械学科
 電気学科
 紡織学科
 繊維染料学科

5 学科

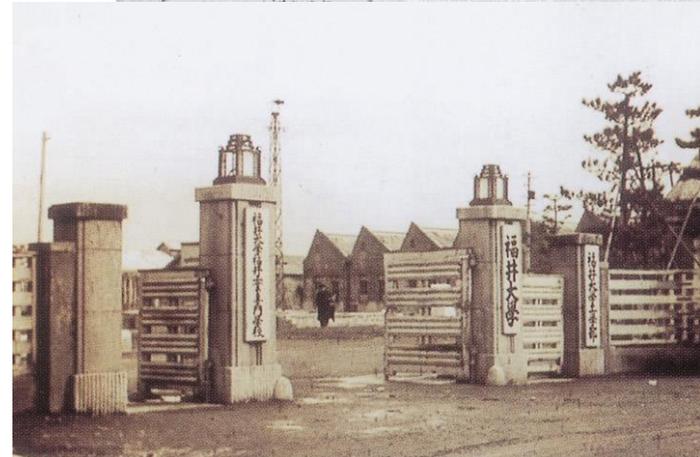
福井復興博覧会1952
 予定地
 ↓
 学芸学部キャンパス



坂部 保治



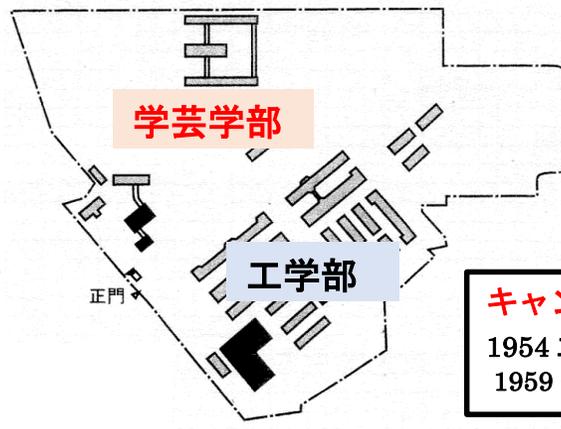
五十嵐 直雄



福井市復興博覧会1952から 福井大学キャンパスへ

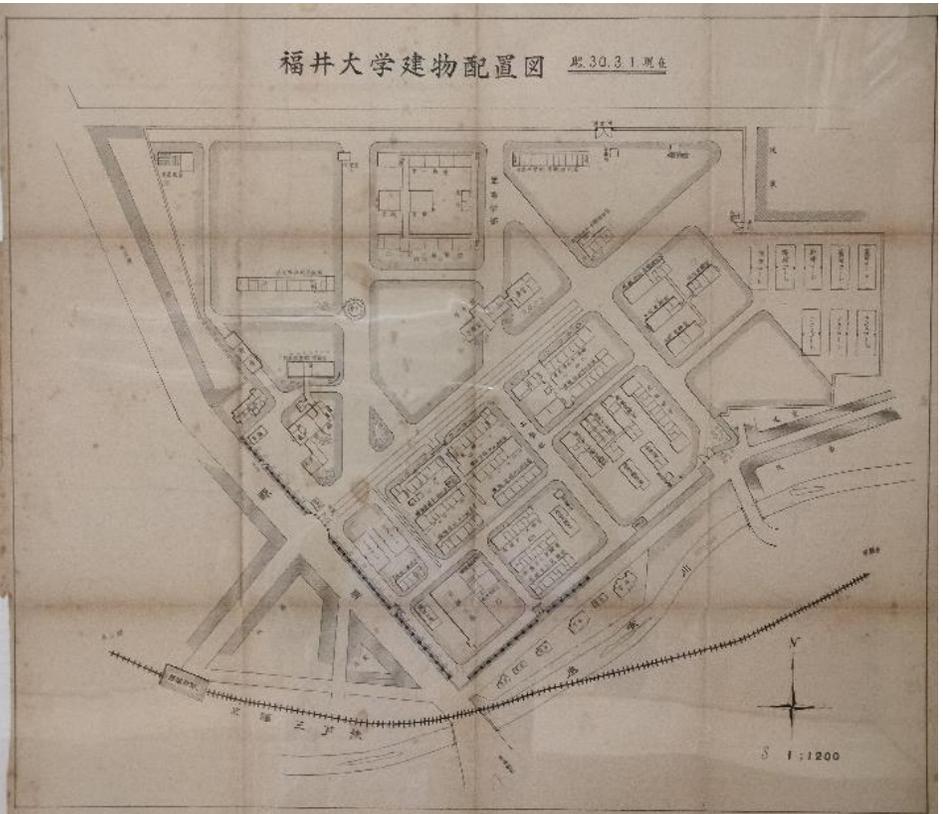
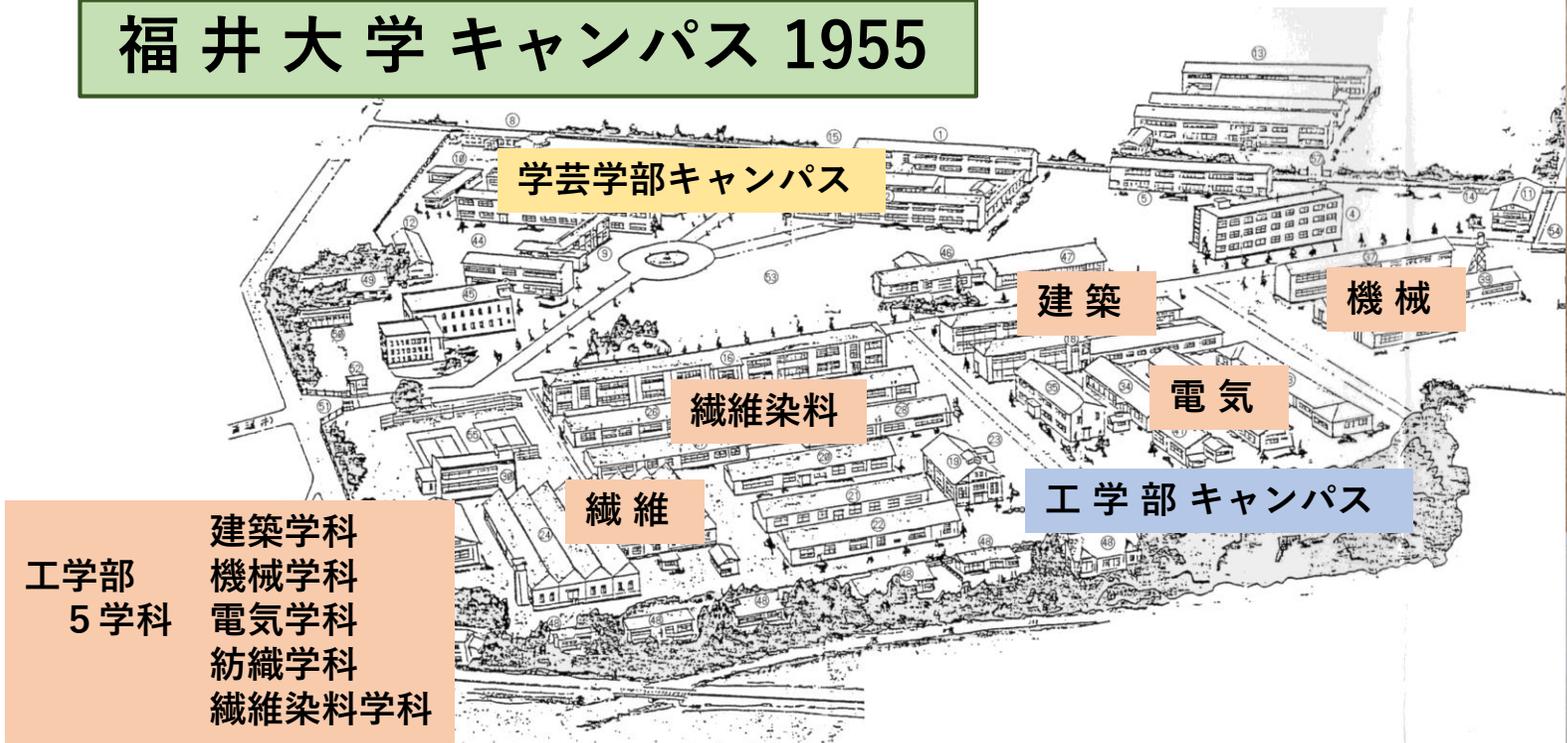


1952 (昭和27) 年4月10日~6月10日
福井市復興博覧会



キャンパス統合へ
1954 工学部長 坂部保治
1959 退官：名誉教授 第1号

福井大学キャンパス 1955



キャンパス中央に建つ“シンボル建築”

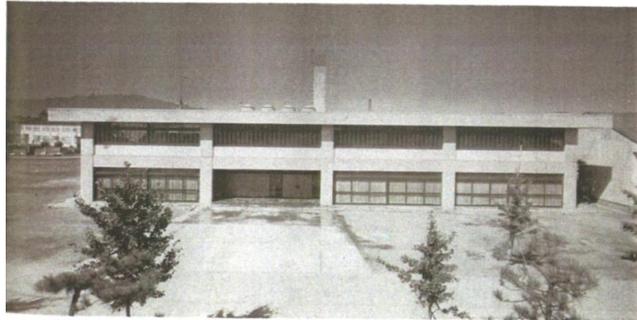


講堂

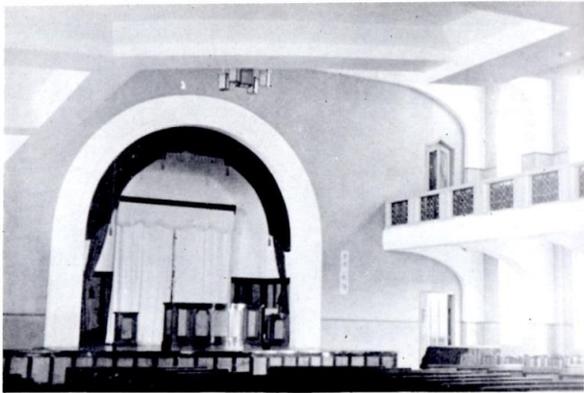


五十嵐 直雄

1964 教授
1974 工学部長
1977~1983 第6代 学長



五十嵐直雄 設計「学生会館」1962
(実施設計：福井大学施設課)



講堂内部

坂部保治 設計「講堂」1927



学園紛争から、五十嵐直雄の学長就任へ

1964年1月16日 第4代学長 藤野清久
1968年9月 学園紛争が徐々に激化する
1969年 工学部学生ストライキ
1970年 正門バリケード
1971年5月18日 第5代学長 清水英夫



1972年 正門バリケードを機動隊が実力排除
1974年 工学部学生ストライキ (工学部長 五十嵐雄)
学生暴力による教員傷害事件
1977年 教育学部学生の無期限ストライキ (2月)
卒業式・入学式を中止する (3~4月)
両学部の学生による
無期限ストの解除 (4月)
1977年5月18日 第6代学長 五十嵐直雄 (~1983: 2期)

* 学外から元文部大臣・永井道雄が擁立されたものの、初の県人学長として選ばれた

福井大学工学部 100年の歴史と伝統を 今のわれわれは如何に受け継ぎ、 次代へ何を伝えていけるのか。

五十嵐直雄のことば (学長式辞「入学生諸君へ」1983.4)



さて、私はこの5月で学長の任期を終えます。いろいろなことがありましたが、その感想を一言で申すなら「福井大学はよいところであった」ということであります。これは比較の問題ではなく、「絶対によい」ということであり、その絶対とは「学校に対する限りなき愛」と言った方が正しいかもしれません。始めからそうではありませんでした。最後にきてそのような感想を持てたのは幸せであったと思います。

58年度入学の諸君も4年後には私と同じように
母校に対する限りなき愛を感じて卒業されるよう努力されんことを期待して、私の式辞といたします。